

●風 害

1 台風の接近時期と特徴

秋田県に接近して通る台風が現れやすい時期は、8月、9月に集中しています。(全体の82%)
また台風は暴風・大雨どちらが主体になるかによって特徴が異なります。

① 暴風 (15m/s以上) をもたらす台風

- I 台風が日本海を北上する。
- II 台風が秋田県の東側、または、日本海を大回りする場合は、北緯40° を越してから西から北西の吹き返しが強くなる。

② 大雨 (80mm以上) をもたらす台風

- I 台風が秋田県の東側を通る場合が多い
- II 台風が日本海 (南部) にて温帯低気圧になっても降雨量が多くなる。
- III 台風による直接的な雨量は少ないが東北北部に前線が停滞している場合は、台風の進路にかかわらず、大雨をもたらす。

2 台風と稲の被害

台風による被害の程度は、風速、吹走時間、風の乾湿などの条件と稲の生育時期状態によって変化します。

稲では、出穂前後が被害が大きくなりやすく、穂揃い期10日前から20日後程度までが暴風に弱い時期になります。特に弱いのは穂揃い期5日後頃を中心とした時期です。また、風が強くと、吹走時間が長いほど被害が大きくなります。

成熟期の被害は、脱粒によって減収するため、減収率は成熟期からの日数が長く刈り遅れが多いほど大きくなります。

降雨をともなった強風は稲体や籾の自重に加え水滴も重量に加わることから、草丈の高い稲、茎の細い稲では倒伏を招きます。倒伏は、登熟不良、穂発芽の要因となり、米の品質を低下させます。



台風の被害に合い倒伏した稲

3 被害軽減対策

暴風の発生が予想される場合は田面に水を張り、水分の急蒸散を防止します。倒伏した場合は、登熟が進んでいたら穂発芽防止のため落水をし、停滞水は暗渠排水、溝切り跡などを利用して速やかに排水します。



穂発芽した稲穂



No.5 農業技術情報

令和元年8月発行

発行：秋田おばこ農業協同組合／秋田県農業共済組合仙北支所
監修：仙北地域振興局農林部農業振興普及課



今後の気温はかなり高い見込み 気象変動に対応した水管理を行いましょう

今年は高温の影響などで、出穂期は8月1日頃と平年より2日ほど早まりました。

いもち病の防除が不適切なほ場では、「ズリコミ症状」が見られています。ほ場を巡回し、病斑が見られる場合は、直ちに薬剤散布をしてください。

●水稻定点生育調査結果 (7月25日現在 あきたこまち) (仙北地域振興局農林部農業振興普及課)

	草 丈 (cm)	茎 数 (本/m ²)	葉 数 (葉)	S P A D 葉 緑 素
本 年 値	68.4	566	12.5	36.6
平 年 値	73.9	470	12.0	38.0
平 年 比	93%	120%	0.5	-1.4
前 年 値	75.4	447	12.0	38.4
前 年 比	91%	127%	0.5	-1.8

○生育調査状況

7月25日現在のあきたこまちの草丈は68.4cmで平年より短く、茎数は566本/m²で平年より多く(平年比120%)、葉数は12.5葉で平年より進んでおり、葉色は36.6で平年と比べやや淡くなっています。

●今後の天気 (仙台管区气象台)

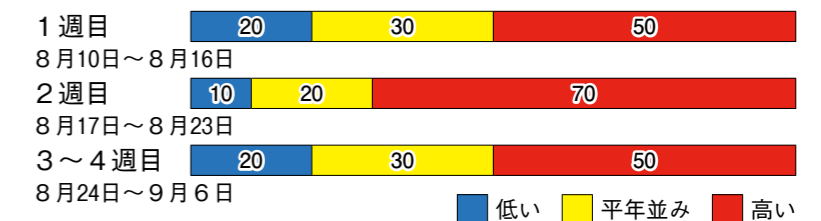
<むこう1ヵ月の見通し> 令和元年8月8日発表

- ・期間の前半は気温のかなり高い状態が続く見込みです。
- ・平年と同様、晴れる日が多くなります。
- ・また気温の高い日も多くなる予報です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率 (%)>

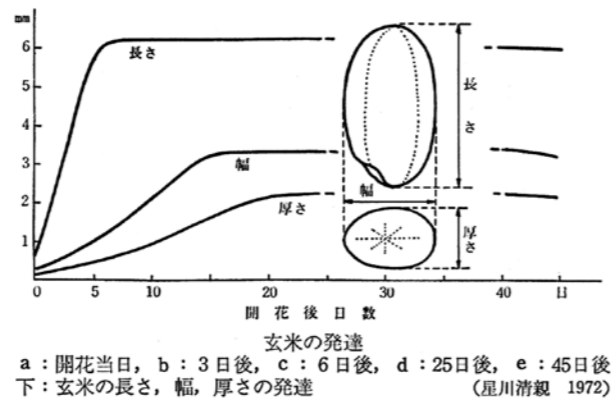


こまめに水分をとり、熱中症に注意しましょう!

■ 低い ■ 平年並み ■ 高い

●出穂後の水管理

- 出穂開花期以降は間断かん水を行ないます。
 間断かん水とは…浅水程度に水を入れ、その水が無くなっても、すぐに水を入れずに1～2日そのままにしておき、再び浅水程度に水を入れるという作業を繰り返す水管理の方法です。こまめな水管理が出来たかどうかによって収量と品質に差が出てきます。常時湛水した場合に比べて根の張りを良くし、倒伏や秋落ち防止・登熟向上に繋がります。今後の気象状況に留意し品質向上に努めましょう。
- 落水の時期は、概ね出穂後30日とします。早期に落水すると葉色の低下、枯上がり、根の機能減退により収量、品質、食味が低下する場合がありますので、用水の有無にも関係しますが、収穫に支障のない程度まで落水は遅くします（溝切跡に水を流すことも有効です）。



●白未熟粒・胴割れ対策

気象庁より出された1カ月予報では8月は気温が高く、高温登熟になることが予想されており、白未熟粒の発生が心配されます。
 気温が30℃以上になる日は、流水量により、水の入替えや夜間かん水などを行い、地温を下げ根の活力低下を防止しましょう。

○高温登熟被害粒の発生要因と技術対策

項目	気象的要因	栽培的要因	技術対策
白未熟粒	乳白 心白 出穂後4～20日頃の高温	籾数過多	籾数制御 水の入替えによる地温の低下
	背白 腹白 出穂後16～24日頃の高温	登熟後半の肥切れ	穂肥 水の入替えによる地温の低下
充実度不足粒	登熟期間の高温	登熟期の肥切れ	穂肥 水の入替えによる地温の低下
胴割れ粒	出穂10日間の高温	登熟期の肥切れ 早期落水 刈り遅れ・過乾燥	穂肥 水の入替えによる地温の低下 適期刈取・二段乾燥

●カドミウム対策

カドミウムをイネに吸収させないため、出穂前3週間・出穂後3週間の計6週間は常時2湛水管理を行い、田面が空気に触れないように管理してください。（カドミウムは土壌中の酸素が少ない状態になると、土壌中の硫黄と結合し水に溶けにくくなります。このためイネに吸収されにくくなります。）

●斑点米カメムシ類発生注意 2回のカメムシ防除を行いましょう。

本年も斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ・アカヒゲホソミドリカスミカメ）の発生が多く、特にイネ科雑草が出穂している畦畔や休耕田などの雑草地、ほ場内にノビエやホタルイが残っているほ場ではすくい取り頭数が多くなっています。

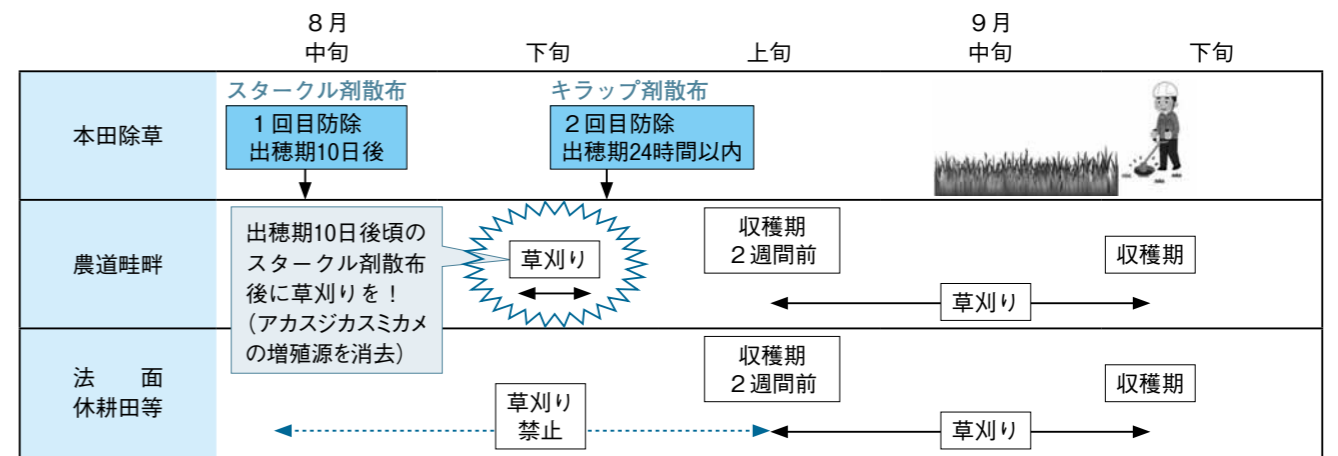
ほ場内・畦畔の除草と薬剤防除を組み合わせ、斑点米被害を抑えましょう。

●主なカメムシの特徴と防除概要

<p>アカスジカスミカメ</p>	<p>体長：成虫で4.6～6mm程度 特徴：ノビエ、ホタルイ等カヤツリグサ科の穂に産卵する。イネにはほとんど産卵しない。</p>	<p>アカヒゲホソミドリカスミカメ</p>	<p>体長：成虫で5～6mm 特徴：水田内で一生過ごし、稲の穂に産卵する。</p>
------------------	---	-----------------------	--

1 耕種的防除

- 出穂期10日後頃に茎葉散布剤を散布後、5日以内に畦畔や農道の草刈りを実施します。アカスジカスミカメの増殖源となるイネ科雑草の除去に努めます。その後、稲の収穫2週間前まで草刈りを行いません。
- 法面や休耕田などで薬剤を使用しない雑草地は、稲の出穂10日前までに草刈りを実施し、その後収穫2週間前までは草刈りを行いません。



2 薬剤防除

通常の防除は出穂期10日後頃の一回散布を基本としますが、今年はカメムシの発生が多いことから、1回の防除では防ぐのが難しいため、出穂期10日後頃と出穂期24日後頃の2回散布を基本としましょう。

散布時期	薬剤名	希釈倍率／散布量 (10aあたり)	適正使用基準	
			使用時期	使用回数
出穂期10日後頃	スタークル粉剤DL	3kg	収穫7日前まで	3回以内
	スタークル液剤10	1,000倍／60～150ℓ		
追加防除 出穂期24日後頃	キラップ粉剤DL	3～4kg	収穫14日前まで	2回以内
	キラップフロアブル	1,000～2,000倍／60～200ℓ		